

第3回立山町公共交通活性化協議会会議録（要約版）

日 時 令和7年2月28日（金） 13時00分～15時45分

会 場 立山町元気交流ステーション2階 大会議室2、3

出席者 別紙「立山町公共交通活性化協議会委員名簿」のとおり

会議録

1 開 会

2 挨 拶

3 出席者紹介

4 報告事項

第11号 令和6年度立山町公共交通活性化協議会予算に係る流用及び予備費の充当について

第12号 第2回立山町公共交通活性化協議会（書面開催）の議決結果について

第13号 立山町地域公共交通計画の策定に向けた今後のスケジュールについて

第14号 立山町都市計画マスタープラン・立山町立地適正化計画の策定の進捗状況について

ア 計画の期間が20年とは長いのではないか。

→ 都市計画マスタープランはおおむね10年ごとに見直しを行うとともに、立地適正化計画は事業を進める中で、5年程度で見直し、まちづくりを進めていきたい。

イ 居住誘導区域は、バス停等の距離から設定されているが、サービス水準を踏まえているのか、バス停等の数で判断しているのか。

→ 現状では、バス停が多く存在することで判断している。

第15号 立山町地域公共交通計画の策定に関する最近の動向について

第16号 立山町公共交通活性化協議会交通WG（第1回）の開催結果について

5 協議事項

第11号 令和7年度事業計画（案）及び予算（案）について

第12号 立山町の公共交通の課題、施策、取組の方向性などについて

第13号 立山町の公共交通全体における関係者の役割について

ア 「利益を求める事業」と「立山町の公共交通」の両立こそが課題である。これまで経費削減のために給与を削減し続けており、それが運転手不足につながっている。役割分担については、交通事業者に偏った責任

のあり方から、公共である自治体と民間事業者がそれぞれの責任の範囲を定めることが重要かつ基本である。一方で、鉄道利用に価値を見いだせない方にこそ、様々なメリットを伝えていく必要があると感じている。(鉄道事業者)

イ タクシーの役割は、鉄道、バス以外の部分の補完と、駅からの2次交通である。町のタクシー事業の規模は小さいため、活性化には運転手等の増加も必要である。また、施策としてはタクシー利用への補助も考えられる。(タクシー事業者)

ウ この協議会の責務は、住民が目的地へ行く移動を支えることである。最適な交通分担の目標を定め、令和8年度からの取組につなげる必要がある。スーパーや病院のバスとの連携や、朝日町ほか他都市事例を参考に検討してほしい。(道路管理者)

エ 町の財政状況を考えると、公共交通にどこまで補助ができるか、残し活かす部分とそうでない部分を検討する必要がある。公共交通の赤字を改善するには町民の意識を変えることが必要だが、事業者や役場のみが頑張っても困難である。これからは、皆で地域での共存の方法を考えていくことが大事である。(観光団体)

オ 利用者の立場からいえば利用者も我慢が必要であり、地鉄電車にはメリハリのあるダイヤを検討してほしい。割引券や送迎スペースの設置など、できるだけ車を使わないような地域づくりをしていく必要がある。(利用者)

カ 交通機能は、一部の地域に集中させると片方で空白地帯ができる問題があるなど、その取扱いが難しい。これからは、インバウンド等の観光面で検討していく必要がある。(住民ボランティア)

キ 高齢者等外出支援サービス事業は、民間の介護タクシー利用者が増加している現状を踏まえ、今年度で役割を終えることとなった。一方で、福祉バスは、大切な交通手段として今後も地域づくりにつながると考えている。町全域を網羅する広域性や無償という特性があり、今後も活用いただきたい。(福祉団体)

ク 25年前の規制緩和で交通運輸業界は一度大きく壊れ、そのしわ寄せとなったのが「従事者」である。国の補助制度が大きく変わっており、県主導で取り組むことがキーとなる。従業員不足による時間外労働、賃金カット等に長年辛抱しており、地域交通の従事者が張り合いを持って従事できるターニングポイントになると良い。(労働者団体)

ケ 利田地区では会社や大型商業施設が増えているが、バスの便数が少なく対応が必要。学校では電車等を体験できる機会がないが、子供には

乗りたい気持ちがある。車内の中吊り広告の活用や駅舎の魅力づくりを検討してほしい。(交通安全団体)

コ 近年は、通学での家族送迎も多く、意識を変えて公共交通を利用するには相当ハードルが高いと感じている。公共交通の活性化には、公共交通サービスの充実が必須であり、簡単には利用者は増加しないため、現状と将来を見据え、ターゲットを絞り込み、それに合った取組から進めるべきである。(市町村)

サ 公共交通を移動手段としてだけではなく、生活を豊かにするツールの一つとして組み込めないか。利用者の役割は「利用すること」であり、地元企業の協力を得ながら、利用者の意識を高めることやイベントと連携し少しずつ利用を増加させるなどの地道な取組を行っていくことが大事。また、帰りの電車代金を半額とするなどの割引をメリットとして視覚化した上で提示してはどうか。(利用者)

シ ターゲットの設定については、日常利用の視点に加え、移住・定住ほか多様な視点からも検討し、関係者の方々と意見をすり合わせていくと良い。WS等での意見の吸い上げは是非続けてほしい、これに加えて事業者が普段働いている姿を間近で見る機会もあると良い。情報発信の取組としては、地元の学生に参加いただくなど関わり合いをつくりながら行うやり方もある。国のシンポジウムは、関係者のつながりづくりも狙いの一つ。こうした場への参加についてもご検討いただきたい。(国)

ス 運転者の魅力発信のため、イベントを継続実施している。悩みを相談しやすい環境をつくり、町などの取組を支援していきたい。(国)

セ 県と立山線沿線自治体で富山地方鉄道に関する会議を今まさに進めようとしているところ。町としてはあり方早急に検討する必要があると考えている。また、町の運行するコミュニティバスは、ニーズをきめ細やかに把握し、町民にとって最も利便性の高い路線を考えていく必要がある。パークアンドライド等の可能性や、観光ニーズへの対応など社会の変化を捉えつつ、県や他市町村と連携し公共交通を支えていけるよう努めたい。(町)

6 閉会